

育ててくれた親を見る幸せ

8年あまり在宅医療に携わってきたなかで、忘れられない患者さんがいます。90代の患者さんを70代の娘さんがご家族と協力して献身的に介護・看病されていました。

その娘さんがよくおっしゃっていました。「自分が小さいころに世話をしてくれた母が寝たきりになり、こうやって見るのは恩返し。こんなに幸せなことはありません」と。

大変なことも何度かありましたが、強い想いで乗り越えられ、最期はご自宅で、ご家族に囲まれて静かに迎えられました。

4年近くにわたって皆で診させていただいた患

者さんだったことでもあります。その娘さんの前向きな姿勢、季節の花と愛情にあふれたお宅の様子が、亡くなられて4年経ったいまも深く心に刻まれています。



在宅医療を始めたときに読んだ本に、在宅医療は“人生の学校だ”と書かれていました。その通り、いろいろな患者さんやご家族から、たくさんのことを学ばせてもらっています。この仕事を始める前と始めてからとは、人との関わり方についての価値観が大きく変わったように感じます。

自分もあの娘さんのようになりたい、親孝行をしようと決意しつつ、また、この気持ちを診療でお会いする患者さんやご家族との関わりにも活かしていきたいと思う今日この頃です。(松井・医師)

● 掲示板 ●

●こんなときは、介護保険証をご提示ください。

先月お願いしました「後期高齢者医療保険証」等の確認作業にご協力いただき、ありがとうございます。

「介護保険証」も大切な書類です。特に以下のような場合には、必ずご提示をお願いいたします。

1. 新規で要介護認定の申請をしたとき
2. 要介護状態区分が変更となったとき
3. 認定の有効期間の更新があったとき
4. 引越しなど、住民票の異動などで、新しい保険証が発行されたとき



三つ葉のスタッフ紹介

こんにちは！医療ソーシャルワーカーの上原です。私は主に、当院に訪問診療のご希望、お問い合わせをいただいてから、医師の初診を迎えるまでの調整をさせていただいています。

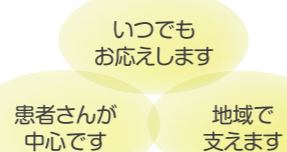


初診まで、いろいろと不安を抱えていらっしゃる方が、無事初診を迎え、患者さまやご家族さまの不安が和らぐのを感じることができたときは、何よりの喜びです。また、私にとって患者さまやご家族さまは人生の先輩でもあります。支援をさせていただく立場であると同時に、「人」として多くのことを学ばせていただいています。これからも一人ひとりの患者さま、ご家族さまとの関わりを大切に、日々頑張っていきたいと思っています。

■ 私たちの理念

最高の在宅サービスを提供し
安心して暮らせる社会を創造する

■ 安心を支えるために...



「三つ葉しんぶん」は患者さん・ご家族と、三つ葉医師・スタッフの双方向通信です。

今月の一枚 ~ 70余年の家族の肖像

6月の初め、クリニックのスタッフの仕事風景を記録するため、何人かの患者さん・ご家族にご協力をいただきました。

岡田シスエさん(左)のお宅では、94歳でほぼベッド上で生活するシスエさんの隣に、97歳の夫・武義さん(右)と一緒に生活されています。

間に写っているのは娘さんと息子さん。シスエさんの4人のお子さんはそれぞれ独立され、お孫さんが全部で9人、来年初めには16人目のひ孫さんが生まれるとのこと。

お子さんたちが大きくなってから民謡を始められ、つい5~6年前まではご家族で温泉旅行に行ったり、カラオケに行ったりされていたそうです。

(写真左：民謡の発表会のとき/中：そのときのことを写真を見せながら松尾医師に話して下さる息子さん/右：10年ほど前、家族旅行先にて)



声

患者さんにご家族からのお便り



天命を貫く

主人が亡くなり3カ月、13年の闘病生活が終わりました。大きな声でびっくりして起き、温かい身体を抱きながら「あなた、あなた」と声をかけているうち、2回の小さな息を吐いて永遠の眠りにつきました。あの温かさと少しずつ消えゆく命を味わってもらいました。私も主人のような天命を貫きたいと思います。



本当に仲の良いご夫妻だったことがうかがえます。お寂しいと思いますが、これからもお元気で過ごされますように。

三つ葉しんぶんでは、皆さまからのお便りをお待ちしております。日ごろの想い、印象に残った出来事、困っていること、ご意見・ご質問など何でも結構です。同封のおはがきを書いてお送りください。



Q: 三つ葉先生たちは、どんな1日を過ごしているの？

A: 暑い日が続いていますが、おかげさまで今日も三つ葉の医師・スタッフはみんな元気です。1人の医師が訪問診療で1日にお邪魔するお宅は平均して8～9軒くらい。朝9時半ごろに出かけていき、夕方クリニックに戻ってきます。では診療以外は何をしているのでしょうか……。

三つ葉には医師のほかにもいろいろなスタッフがいて、チームで「いつでもすぐに」や「患者さん中心」「地域連携」の医療が実現できるよう協力しています。

朝のスタート！



朝はまず「カンファレンス」と呼ぶ医師の会議から始まります。前夜に緊急往診があった患者さんや状態の悪い患者さんの状況を把握し、治療方針について検討しています。



医師がカンファレンスを行う間、診療サポートチームも準備。ルートの確認などを行います。

3つのエリアに分かれて、本日訪問予定の患者さんについて細かく確認していきます。

容態の不安な患者さんにお電話したり、電子カルテの情報を確認したり、訪問準備を整えます。



往診車と車載物品の点検もしっかり行います。



行ってきま～す！！



地域連携の窓口

初めての患者さんをお引き受けするとき、三つ葉の患者さんが入院されるなど、他の医療機関とのやりとりが必要になったときなどに、地域連携の窓口になっているのが、医療ソーシャルワーカーです。

地域の方々と医師との間の、いろいろな調整を行い、初診のときには医師とともに患者さん宅を訪問します。



診療後の“ホッと一息”

診療から帰ってくると、その日の診療記録を整理したり、連携事業所に連絡をとったりします。

一日診療した後は、ちょっと緊張もほぐれ、和気あいあいとした雰囲気の中、気になる症例について話し合ったり、小グループで勉強会を行ったりしています。

ときには、子育ての話に花が咲くことも…。



日中のクリニックの様子



日中、内勤のスタッフたちは、患者さんたちからのお電話に応えながら、次の日の診療の準備を着々と進めています。

それぞれの患者さんに合わせて、必要な医療材料などを用意したりしています。



大勢の医師が別々に、たくさんの患者さんを診療してきます。

医師がクリニックに帰院したらすぐに、検査のための検体や書類などを間違いのないように、事務スタッフと確認します。